令和５年度北区立浮間小学校　学校関係者評価報告書

令和６年２月２１日

学校関係者評価委員会　委員長　栗屋　恒子

１　学校関係者評価委員会の構成

麻生　晃寿　　様　（本校現ＰＴＡ会長）
稲舩　千里　　様　（スクールコーディネーター・元 PTA 会長）
奥村　宏　　様　（北区立浮間中学校長）
栗屋　恒子　　様　（保護司・本校元ＰＴＡ会長）
鈴木　あけみ　様　（北区立浮間保育園長）
吉野　綾　　様　（民生児童委員・主任児童委員）
高木　一春　　様　（青少年浮間地区委員会長）
和田　麻紀子　様　（浮間子どもティーンズセンター所長）
杉浦　悦子　　様　（児童発達支援事業所キッズタウンあとりえ係長）

２　学校関係者評価委員会の主な活動

①第１回学校評議員会
令和５年６月２日（金）１６時～１７時
〇学校評議委員会の日程他の説明
・校長あいさつ・今年度の学校経営方針、学校状況説明
・学校評議委員委嘱状伝達
・学校評議委員あいさつ
・質疑応答

②第２回学校評議員会・学校関係者評価委員会
令和５年１０月１３日（金）１６時～１７時
〇学校評価中間評価報告

③第３回学校評議員会・学校関係者評価委員会
令和６年２月９日（金）１６時～１７時
〇学校評価集計結果及び改善策の提示、改善策について協議
・学校評価の報告
・今年度の教育活動と児童の状況について報告
・来年度の学校経営及び教育活動について
・学校関係者評価
・改善策を踏まえた来年度の教育活動について協議

３　学校関係者評価の結果と分析

①　学習面　自己評価２⇒関係者評価３

・わくわく浮間ひろばで宿題に取り組む様子を見ていると答えを写している児童を見かける。保護者アンケートからは答えを配ってほしいとある。自分で解いて自分で答え合わせをできる児童を育成したい。

・習熟度別算数少人数制授業が一年間できなかったことは厳しかったと推察する。少ない人数で目が行き届く環境で理解が進むと思われる。来年度は改善を図ってほしい。

・理科に課題があるようだ。実験を通して理科の楽しさを教えてほしいが、一方で実験の準備時間はきちんと確保して新聞報道のような事故が起きないように配慮してほしい。

②　生活面　自己評価２⇒関係者評価３

・児童の他害行為は心配である。日頃の指導が大変だと推察する。他の児童への影響が大きいのでこれからも現状のように関係諸機関と連携しながら改善を図ってほしい。

・浮間中学校サブファミリーで情報共有ができていた。小中連携をスムーズに行うことができた。

③　特色ある教育活動の推進　自己評価３⇒関係者評価３

・青森県東通村との交流が２０年間継続できたことは素晴らしいことである。特に浮間小学校と東通小学校の児童が直接交流できたことは、児童が視野を広げて社会を考えることにつながる。

④　道徳性の涵養　自己評価３⇒関係者評価３

・先生の話を全体で聴くことができない園児が年々増加している。三分の一の園児は指示を理解できていないのではないか。ユーチューブにはまっている園児は映像でしか理解できていない。本の読み聞かせなど情操を豊かにする取り組みが必要である。

・学童保育でも自分の思い通りにならないと攻撃的になる児童が増えている。生活の場で守らなければいけないルールはきちんとしつけたい。併せてそのような園児の保護者対応に苦慮している。

⑤　地域人材・外部人材の活用と関係諸機関との連携　自己評価３⇒関係者評価３

・社会を明るくする運動、税に関する絵はがきコンクールなど地域と関わる取り組みに積極的に参加している。各種取り組みを通して浮間小や地域を愛する子供たちに育ってほしい。

４　改善の方策についての意見

（１）学習面

・全教科で国語が一番大事だと思う。幼児にスマホを与えると静かになるので、スマホに頼る家庭が増え、結果絵本離れが進んでいるように思う。紙芝居、読み聞かせなどの活動を幼児のうちから取り組み、小学校入学に向けて話を聴くことができる園児を育成したい。保幼小の連携をしっかりと行っていきたい。

・本が嫌いだと話を組み立てることが難しく将来が心配である。改善策にあるように、読書や授業を通して学ぶことの喜びや達成感をもたせ、学校や家庭で学びに向かう姿勢を高め、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ってほしい。

・４、５、６年の習熟度別算数少人数制授業ができるようにぜひ人材を確保してほしい。

・中学校の教員が小学校の授業の流れ（「めあて」の表示⇒活動・学び⇒振り返り）を学び、自己の授業改善に生かしてほしいと思う。中学校の教員ができていないところである。北区学校ファミリーの日での小中相互の授業観察は有効であった。

（２）生活面

・小学校の就学にあたりとても悩んでいる保護者がいる。最大３５人の集団に入り学校生活を送ることに不安感がある。特別支援教育についても十分に対応していただいていると思うが、個に応じた配慮や支援をお願いしたい。

・放課後子供クラブの不審者対応訓練では、児童は学校の訓練を生かしスムーズに動くことができていた。一方、帰宅せずに地域で遊んでいる児童がいる。安全のため必ず帰宅させ、保護者に行き先などを伝えてから遊ばせたい。

・いじめ重大事態２件を抱えるなど対応が大変だと思うが、学校だけで抱えずに関係諸機関とも連携して解決を図ってほしい。

・浮間地区全体で気持ちの良いあいさつを進んで行ったり、思いやりのある言葉づかいをしたりできる児童・生徒を育成したい。そのため学校、家庭、地域が連携してできることがあればと思う。

・「学校いじめ防止基本方針」についてはどの程度の保護者が理解をしているのか。また、教員の理解も十分でないような話を聞く。いじめ問題こそ学校と家庭が連携して、「いじめ０」を目指す気概をもってほしい。

（３）特色ある教育活動の推進

・さくら草の栽培については、芽分け作業をしたら終わりでなく、よく観察することやさくら草が多年草であることなど正しく理解することを児童に指導してほしい。

・さくら草栽培活動やうきうき池・棚田・学年園を活用した活動は、持続可能な取り組みとなるような校内外の体制を築くことが喫緊の課題であると思う。

（４）児童の道徳性の涵養

・道徳授業地区公開講座では中村印刷中村社長から物づくりに情熱をかけた半生を伺うことができ５・６年児童にとってとても貴重な経験になった。特に「道はひとつではない」という言葉は児童の心に深く響いたようだ。ありがたいことである。

・子供が不適切な言葉で他者を傷つけているような場面に遭遇することがある。先生方が人権感覚をもち児童の不適切な言動は見逃さず指導するとともに、教職員も子供たちの心を知らず知らずのうちに傷つけないようにお願いしたい。

（５）地域人材・外部人材の活用と関係諸機関との連携

・３年生がそろばんの専門家による授業を受けることができたことは素晴らしいことである。日本の伝統・文化を子供たちに継承することにもなる。教師にとっても指導法を学ぶ機会となる。

・キッズタウンうきま等の療育機関と連携して特別支援教育を推進することは大切である。